



PLATILUX

—光あれ

第19号 2022.4

=CONTENTS=

- ◇文学と彫刻
— 高村光太郎の場合 — (吉田 昌志)
- ◇図書館は「ライフを充実させる良質な資源」に出会う場所 (伊藤 純)
- ◇昭和女子大学図書館の丸窓 (田村 圭介)
- ◇図書館貴重資料展示
- ◇学生アクティビティ
- ◇2022年度 図書館年間スケジュール

文学と彫刻

— 高村光太郎の場合 —

副学長 吉田昌志
図書館長 YOSHIDA Masashi



ここ半年あまり、彫刻の作品集(写真集)ばかりを観ている。高村光太郎(1883-1956)のことを考えているからだ。詩人ではなくて、彫刻家としての彼についてである。考えはじめたころ、日本語日本文学科のブログに書いた内容と重複するところもあるが、お許し願いたい。

岡倉天心の招請で東京美術学校教授となった木彫家高村光雲の長男として生れた光太郎は、明治35年(1902)に美校の彫刻科を卒業、翌年、彼の生涯を決定づけたオーギュスト・ロダン(1840-1917)の彫刻と出会う。むろん写真を通してだったが、明治41年(1908)パリに渡ってその実物に接し、帰国後はしだいに青年期に造った自分の彫刻を嫌厭するようになる。

私と光太郎彫刻との出会いもまた写真によってだったが、中学生の時「日本文学アルバム」の『高村光太郎』の巻(筑摩書房1956)の「薄命児」(明38/1905亡失し写真でのみ伝わる)を見て、代表作「手」(大7/1918)とは全く違う造型に搏たれ、その頁を本から切取って机の前に飾っていたほどだった。「薄命児」は曲馬団の玉乗りの少女が親方から折檻されて泣いているのを、兄弟子の少年が左腕で抱きかかえている二人立ちの像で、少年の怒りの眼が親方を睨んでいる姿を造型した作である。強きものを不当とし、これに挑み抗おうとする姿勢と客気が少年の眼差しに集約されている優品だと思うのだが、先にも述べた通り、作者はこれを「文学過剰の彫刻」だとして否定しているのだ。作者の認めない作が私の最も愛する彫刻だったわけだが、しかし、果して文学は彫刻において排除されてしかるべきものなのであろうか。この疑念を晴らすことのできないのが、ひどくもどかしい。

光太郎にとっての「絶対神」だったロダンの彫刻は、常に「文学的」であるとの批難を受けていたが、ロダンは全く意に介さなかった。というよりも、文学から多大な示唆を得ていたことは、畢生の大作にして未完となった「地獄の門」が詩聖ダンテの『神曲』の「地獄篇」の世界を具象化した彫刻であるのが何よりの証となろう。であればこそ「考える人」は、その象徴として「地獄の門」の上部中央に据えられ、沈思する詩人の姿を形象したものなのであり、ロダンにおいて文学は彼の造型のエネルギーの源泉にほかならない。

光太郎がこのことを知らないはずはないのだが、なぜ彫刻から文学を斥けようとしたのか。光太郎の詩に溢れ出している感情や生命感を、なぜ彫刻で具象できなかったのか。いまだによく解らないでいる。

これからも、図書館にある『高村光太郎彫刻全作品』(六耀社1979)は大判で、いつも見るのは大変だから、手ごろな『高村光太郎 造型』(春秋社1973)を借り出して見返しながら、文学と彫刻について考え続けてゆきたいと思う。



右：『高村光太郎彫刻全作品』穴沢一夫ほか編集 六耀社 1979
左：『高村光太郎 造型』吉本隆明、北川太一編 春秋社 1973

図書館は「ライフを充実させる良質な資源」に出会う場所

キャリア支援部長 伊藤 純

多くの学生が関心を持つトピックの一つに「ワークライフバランス」がある。

筆者自身は、「ワーク」は「ライフ」全般の中に包含されるという立場をとっており、ワークライフバランスという二項対立を超えて、ライフそのものを充実させるために何が大切かを教育・研究を通して考え続けてきた。

その鍵の一つは生活時間配分である。時間という資源を一日24時間、あるいは生涯というスパンで見た時に、どのような生活行動にどれくらい配分するかという主体的マネジメントの視点が重要である。ワークをも含むライフそのものを充実させるには、まず自分自身とじっくり向き合い、どのような生き方をしたいかを吟味し、熟考すること。その上で一人ひとりが自分にとって必要な資源の所在を知り、それを使いこなす意思を持ち、行動に移していくことが肝要である。

しかし、学生の皆さんの中には自分自身との向き合い方がわからない、どのような生き方をしたらよいのかと思ひ悩む人も少なくないだろう。自己を確立できていない学生時代だからこそ、大いに悩み、迷う価値があるのだが、これはなかなかしんどい作業ではある（しかも、3年次になれば就職活動が本格化し、容赦なく皆さんを「自己分析」に追い立てる）。

そんな皆さんに活用してほしいのは社会人メンター制度と図書館である。前者についてはキャリア教育で詳しく説明しているので割愛するが、そもそも皆さんは本学図書館に約58万冊もの図書があることをご存知だろうか。蔵書検索システムでおもむろに「人生」と入力しただけで2,400件余の文献がヒットする。「キャリア」で1,400件ほど、「生き方」では360件ほどである。専門書から文学作品までそのジャンルは幅広い。

筆者は学生時代、「読書会」という自主サークルに所属し、年間何冊もの本を読み、メンバー同士の討論を通して多角的な視点で物事を捉えることの重要性や、自分の関心のあるジャンル以外の本を読むことの楽しさを知った。自分の価値観や生き方について見つめる機会も得た。

本は皆さんに生き方のヒントを与え、自身の心のうちに潜む豊かな感情を引き出す良質な資源の一つである。学生の皆さんも、就活スキルとしての自己分析ではなく、生き方・働き方を自分自身でデザインできるよう、まずは図書館を学生生活に必要な資源として改めて位置付け直すとともに、24時間のうちの数十分を読書に充ててみてはいかがだろうか。

【読書会で読んだ本の例】



『夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録』新装版
ヴィクトール・E・フランクル著
霜山徳爾訳 みすず書房 1985



『自由からの逃走』新版
(現代社会科学叢書)
エーリッヒ・フロム著
日高六郎訳
東京創元社 1965



『愛するということ』
新訳版
エーリッヒ・フロム著
鈴木晶訳 紀伊國屋書店
1991

昭和女子大学図書館の丸窓

学生部長 田村 圭介

西門からユリノキの円形広場へ抜けるヒマラヤスギ並木道の両側には、二つの20世紀の建築様式が対峙している。右側の白いバルコニーとガラスの水平窓が各階に連続している大学1号館（1966年竣工）の「モダニズム様式（近代建築様式）」と左側の各階で異なる窓の形や垂直の日よけが並ぶ大学8号館（2002年竣工）の「ポストモダニズム様式」である。

そんな8号館をポストモダニズム様式の建築たらしめる要素の一つが図書館の2階階に跨いで設置された丸窓である。それはかつてバックパッカーになって訪れたアメリカはニューハンプシャー州エクセターにある「フィリップ・エクセター・アカデミー図書館」（1972年竣工）の丸窓を思い出させる。設計は20世紀後半を代表するアメリカ人建築家ルイス・カーンである。

建築構造の点から半円アーチを持つ建築は多いが、丸窓をメインに持つ建築は割と少ない。世界的に最も有名な丸窓と言えば、パリのノートルダム寺院のバラ窓であろう。背の高いゴシックの闇の中にステンドグラスを通して青色を基調とした極彩色の光は森の中の精霊たちをそして神を体現させる。そこでは内部空間を幻想的な別世界へと変換させる装置として丸窓は機能する。日本で言えば、京都の鷹峯にある源光庵の丸窓「悟りの窓」が有名であろうか。ぽっかりと丸い窓からのぞくありのままの自然という異世界へと誘う。

エクセター図書館の丸窓は後者であろうと想像していたが、実際に行ってみたら違った。エクセター図書館は、伸びやかな芝生の上に建つ四面同じレンガ格子ファサードを持つ四角い建築であった。丸窓は建物の中央にある吹き抜け空間の四面の壁を構成し、天井の頑強な十字型大梁から茫漠とした光が落ちていた。しかし、その光の下に大きな球の空間が現前しているのだ。それはあたかもトリックアートのようなのだが、四つの丸窓は球の四つの断面のように機能して、実際にはないのだがそこに球という空間が現れているのだ。大梁からの光はその球の出現のためにあった。単なる丸い窓という表層的な記号の戯れとは異なり、あくまでも空間を追求したカーンならではの力強い所作を体験した。

図書館のある8号館3階4階のフロアだけに丸窓がかかっているのは、図書館のシンボルとしてエクセター図書館の丸窓からインスピレーションを得たことが想像されるが、同じ丸窓でもエクセター図書館のそれとはとても異なっている。

そうそう昭和女子大学の丸窓と言えば、各研究室の扉の丸窓がある。こちらは研究室の中でやましいことはしていませんよ、という世の中に自分の潔癖性を表す社会への窓なのだそうで、くれぐれもこの丸窓を覆うようなことはなさりませんように。



ヒマラヤスギ並木道左が8号館。3・4階に丸窓がある
右が1号館



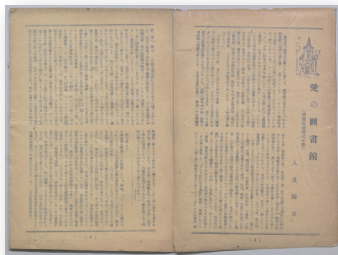
フィリップ・エクセター・
アカデミー図書館
中央吹き抜け空間

図書館貴重資料展示

昭和女子大学図書館には、本学の特色をあらわす特殊文庫及び特殊コレクションがあります。

図書館コレクション展 一昭和学園教育の礎一

会期：2021年3月9日（火）～5月8日（土）



光葉 復刊号 濱中博編 光葉會
昭和24(1949)年2月
人見圓吉「愛の図書館」図書館開館式式辞



天保日記 [井関隆子日記]
[天保11(1840)～15(1844)年]

昭和学園教育の根幹を成す学園史料、近代文庫、女性文庫、トルストイ文庫資料、特殊コレクションの中から桜山文庫『天保日記（井関隆子日記）』などを紹介した。本テーマの展示は学園の歴史に触れる機会として、毎年行っている。

*2022年度開催：3月9日（水）～4月27日（水）

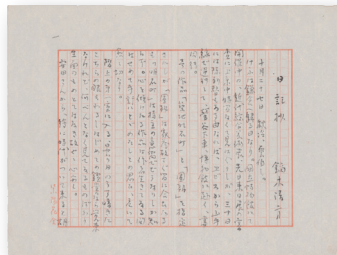
図書館コレクション展 一鏑木清方と近代作家一

図書館会期：2021年5月19日（水）～7月21日（水）

博物館会期：2021年6月29日（火）～7月22日（木）

近代日本を代表する美人画家、風俗画家である鏑木清方の挿絵、画幅、自筆の原稿と書簡等を図書館・光葉博物館の2会場に於いて紹介。

清方は、明治30年代には挿絵界の第一線に立ち、当時の文壇の最前線にいた泉鏡花、その師尾崎紅葉と知遇を得て、彼らの物語世界を豊かな感性で絵画に具象化し、のちの清麗な美人画の基礎をかたちづかった。鏡花や紅葉以外にも多くの作家の口絵を描いている。



日記抄 [鏑木清方自筆草稿]
©Akio Nemoto2022/JAA2200029



鏑木清方扇面額「疲れ（美登利像）」

図書館コレクション展 一聖書・百人一首・かるた一

会期：2021年9月29日（水）～11月17日（水）



左：学生が選んだ「わたしの好きな百人一首」をパネル化し、壁に掲示。インターンシップ生作成



右：The Holy Bible 欽定訳聖書 Stationers 1649
チャールズ・ディケンズ蔵書票

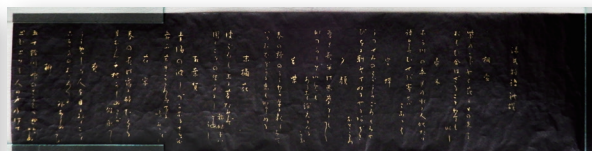
聖書、百人一首、かるたをテーマに『クリスマス・キャロル』で知られるチャールズ・ディケンズ旧蔵本『The Holy Bible（欽定訳聖書）』や色鮮やかな尾形光琳画の『光琳かるた』（復刻版）を紹介。「わたしが選んだ百人一首」と題して学生が選んだ歌を紹介する企画も好評であった。その他、本学元教授で歌人の故木俣修の書簡や原稿、色紙などの自筆資料に加えて、著作を初出陳した。

図書館コレクション展 一源氏物語の世界一

図書館会期：2021年12月1日（水）～22日（水）、2022年1月12日（水）～2月2日（水）

博物館会期：2021年12月13日（月）～22日（水）、2022年1月12日（水）～2月2日（水）

「源氏物語」をテーマに、与謝野晶子や谷崎潤一郎をはじめとする近現代の作家の現代語訳や、初出陳となる与謝野晶子の自筆資料「源氏物語礼讃歌」や「源氏物語滯標（みおつくし）」を紹介。本展は光葉博物館と連携し、博物館収蔵の源氏物語絵に描かれた公家装束や調度品とあわせて、「源氏物語絵貼交屏風」や「源氏物語第九帖葵」などを光葉博物館にて展示した。



左：源氏物語第九帖葵
右：与謝野晶子自筆源氏物語礼讃歌

学生アクティビティ

参加学生の声をご紹介します！

図書館でのイベントや企画等、積極的な参加をお待ちしています。

※学科・学年は参加当時のものです。

図書館ボランティア 秋桜祭企画

心理学科2年 石井塔子さん

本好きという共通点で集まった仲間たちとの活動は、本の新たな一面を知れたと同時に本の魅力を再確認できたとても刺激的な体験でした。秋桜祭の開催期間中に、図書館を訪れた方と、本や企画の話で盛り上げられたことがとても嬉しかったです。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から制限が多い中で、自分たちの感じている本の魅力をどうやって多くの人達に伝えられるか、広報の視点で物事を考える良い機会となりました。



秋桜祭企画「タイトル川柳」：印象的な本のタイトルで川柳を作って本を紹介

図書館ボランティア 秋桜祭企画・図書館カウンター業務

日本語日本文学科3年 上野琴子さん

ボランティアでは、図書館のカウンター業務のいくつかに関わらせていただきましたが、その中でも特に印象的だったのは本の修理です。私は書き込みを消しゴムで消す、取れてしまったページを貼り付ける作業といった簡単なものに挑戦しました。とても繊細な作業で難しかったです。修理が終わった本にはとても愛着が湧きました。

壊れてしまったら買い替えるのではなく、修理しながら大切に長く読まれている図書館の本は幸せだなと思うと同時に、本に限らず、モノを繕いながら長い間大切に扱うことの尊さを改めて実感しました。



秋桜祭企画「装丁の綺麗な本」展示：学生が「装丁の綺麗な本」というテーマで本を選び、紹介

図書館インターンシップ

歴史文化学科3年 森山霞さん

インターンシップに参加し、座学の学びを実際に体験できただけでなく、他参加学生と話し合う機会もあり、考える学びも得ることが出来ました。展示業務や資料のデジタル化なども含まれていたため、学芸員を目指す学生にもお勧めです。展示の一部を初対面同士で協力し合いながらつくらせて頂き、苦戦もしましたが協力の大切さやコツなどを知ることが出来ました。

この経験を通して、改めて資料に触れ続けたい想いを再確認し、就活の際の指標の1つに加えました。



展示作業をするインターンシップ学生

図書館ブックハンティング

ビジネスデザイン学科3年 井上由菜さん

今回参加して、いつもはあまり立ち寄ることがない書店に行き、本を選書することができ、とても有意義な時間を過ごせました。コロナ禍で読書を楽しむ時間が増え、気になっていた本を選ぶことができました。また古書店にて神保町の歴史を伺い、本だけでなく絵画も見させていただきとても興味深かったです。普段の授業では学べない貴重な体験ができるので、次年度も参加したいと思うとともにみなさんにおススメしたいと思います。

* 図書館ではブックハンティングのほか、Web 選書、ゼミ選書ツアーなどの選書イベントを実施しています！

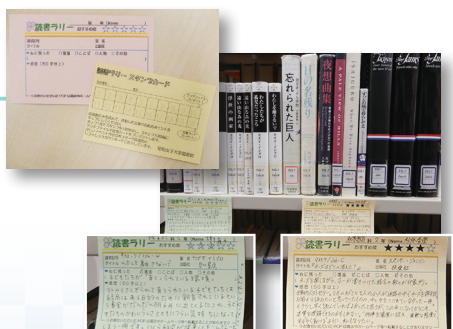


三省堂神保町本店での選書の様子

読書ラリー

言語教育・コミュニケーション専攻2年 大野直子さん

私は本を読むのが大好き！図書館の新刊の棚を見て自分の分野と違う本を読んでいると、脳内の使っていない場所を使っているような気持ちになります。でも、記録しておかないと後で「読んだっけ？」ということに。備忘のため「読書ラリー」のカードを書き、スマホで写真をとって残しています。カードをカウンターに出し、はんこを集めると図書カードやクリアファイルを頂けるのも嬉しく、今年度 300 冊近く図書館の本を読みました！読書ラリーを活用して皆さんも読書を楽しんでください！

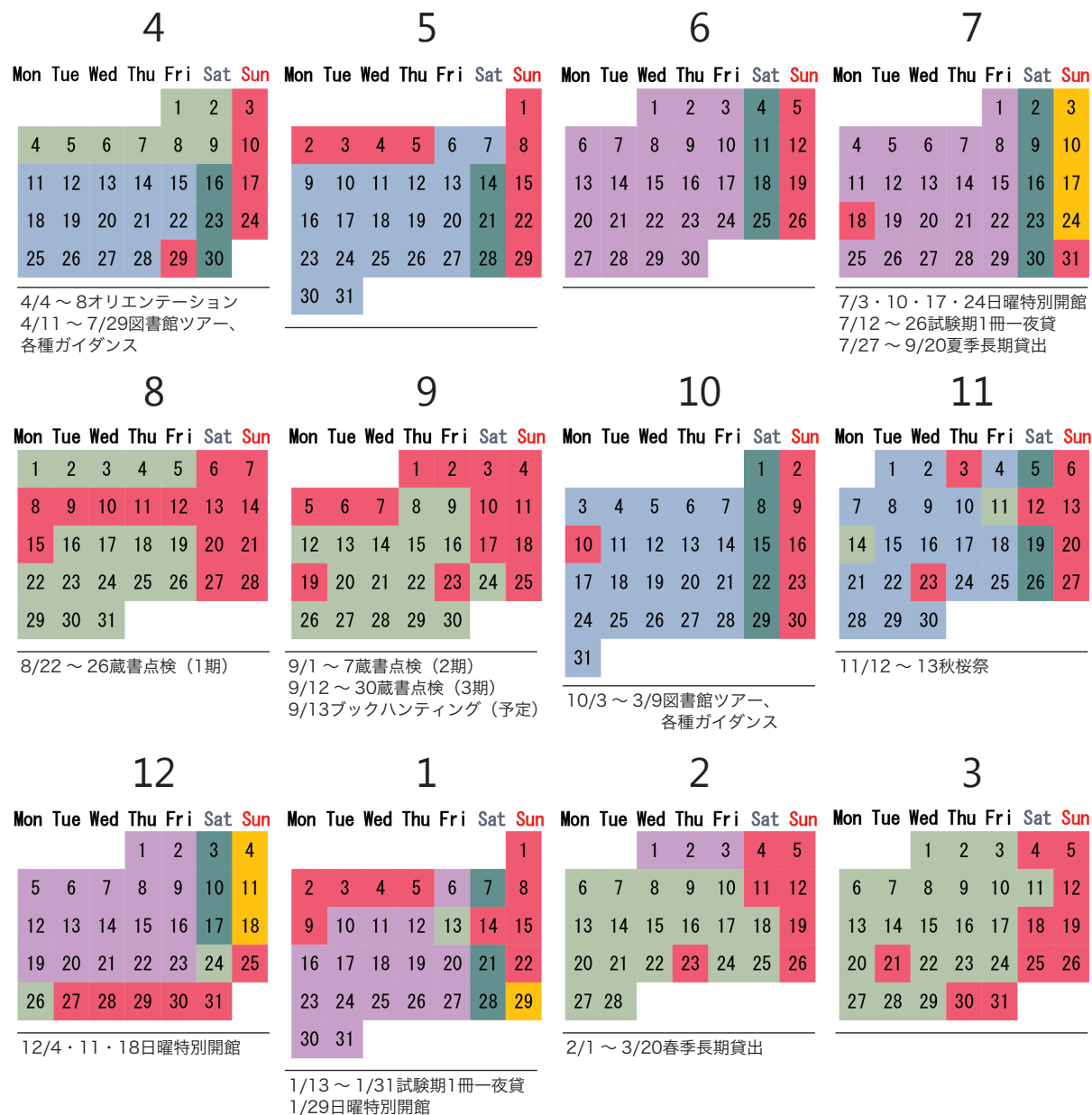


読書ラリーの様子

2022年度 図書館年間スケジュール

最新の情報は図書館ホームページ参照

開館時間 ■8:45～21:30 ■8:45～20:30 ■8:45～18:30 ■8:45～17:00 ■9:00～16:00 ■休館



● 2022年度貴重資料展示予定 (変更する場合があります)

展示内容	展示期間
図書館コレクション展 —昭和学園教育の礎—	2022/3/9(水)～4/27(水)
図書館特別展 夏目漱石 修善寺の大患前後	2022/5/18(水)～7/20(水)
図書館コレクション展 —近世・近代 食文化・食生活—	2022/9/28(水)～10/26(水)
国会議事堂コレクション —絵画資料を中心に—	未定
図書館コレクション展 —昭和学園教育の礎—	2023/3/8(水)～5/10(水)